

令和4年度

事業概要

港湾局

目 次

I	港湾局の概要	1
II	組織と事務分掌	2
III	令和4年度 主要事業	3

(6) 須磨海岸エリアの魅力向上（港湾計画課、海岸防災課）

須磨海浜水族園・海浜公園の再整備にあわせ、隣接する須磨海岸においても、四季を通じて家族連れで行きたくなるような賑わいのある海岸づくりに取り組むほか、今後の活用手法の検討を行う。また、須磨ヨットハーバーの再整備及び管理・運営方法についても検討を進め、エリア全体のさらなる魅力向上を図る。

須磨海水浴場においては、令和元年に西日本で初めて取得した国際環境認証「ブルーフラッグ」の継続取得を目指すとともに、健全化の取り組みを推進する。

- (R4年度事業)：
- ・須磨海岸エリアの回遊性向上と賑わいづくりに向けた実証事業（次世代モビリティの実証事業、海上交通に関する実証事業等）
 - ・須磨ヨットハーバーの魅力向上に向けた再整備の事業化検討
 - ・須磨海水浴場の運営（仮設利便施設の設置等）
 - ・須磨海岸の健全化対策



須磨海浜水族園・海浜公園再整備（イメージ）

(7) 港湾労働者などの福祉の増進（経営企画課、港湾計画課）

港湾労働者などの福祉の増進を図るため、港湾厚生施設の改修などに取り組む。

- (R4年度事業)：
- ・港湾厚生施設の改修
 - ・コンテナ専用道路付近へのトイレ設置
 - ・神戸港福利厚生施設「神戸ポートオアシス」等の管理運営

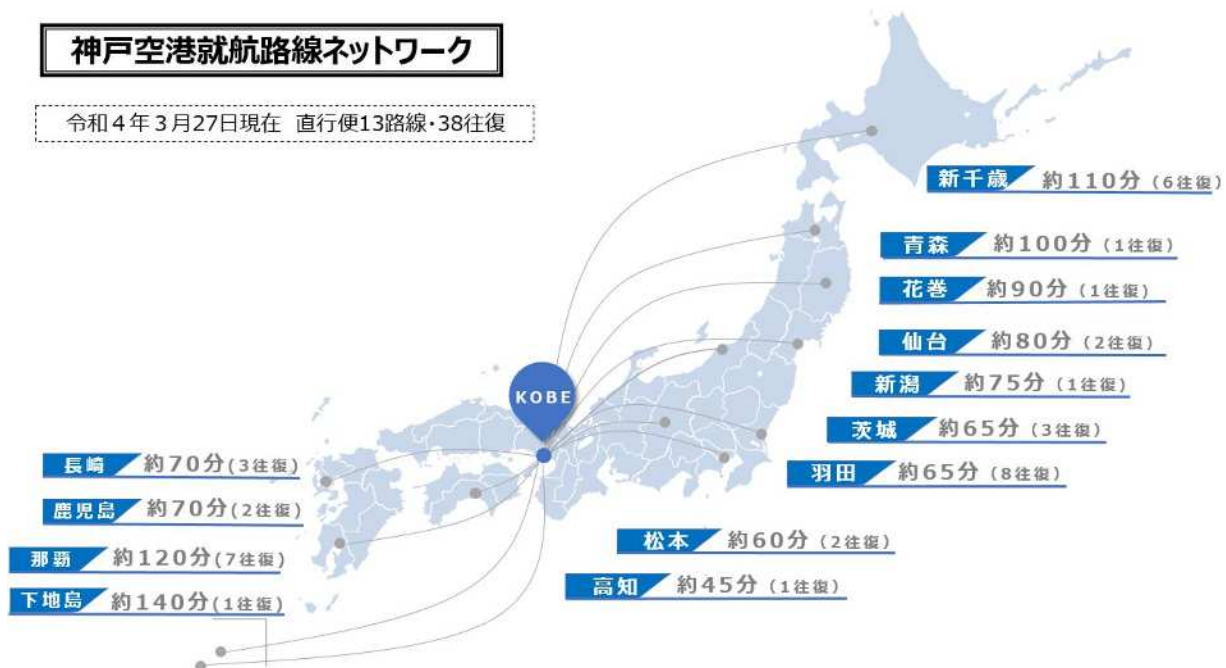
(8) 神戸空港の運営（空港調整課）

神戸空港は、平成30年4月から関西エアポート神戸(株)が運営しており、関西国際空港及び大阪国際空港との一体的運営を図っている。

令和元年5月の関西3空港懇談会の合意に基づき、発着枠の拡大及び23時までの運用時間の延長が実現した。令和4年夏ダイヤからは、新潟への路線が結ばれ、就航都市は全国13都市へと拡大する。

引き続き、コロナ禍により落ち込んだ航空需要の回復に向け、関西エアポート神戸(株)や航空会社などと取り組むとともに、神戸空港のさらなる利活用が進むよう、就航先の自治体などとも連携し、航空需要の拡大に向けて取り組む。

また、令和4年度は、関西エアポート神戸(株)による空港運営が5年目を迎えることから、空港運営の状況等についてモニタリングを行う。



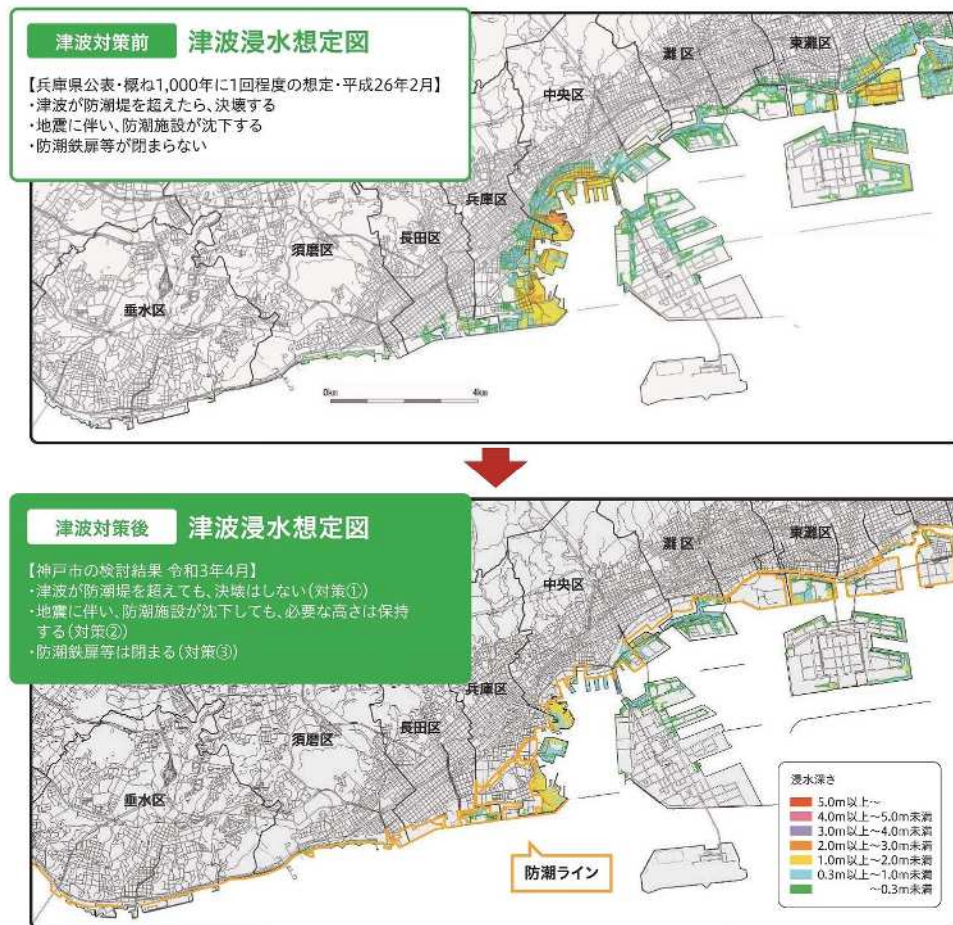
2. 一般会計（港湾局所管分）

（1）高潮・津波対策（海岸防災課）

将来、発生が想定される南海トラフ巨大地震に伴う津波及び大型化する台風に伴う高潮に対し、市民の安全・安心を確保するとともに、災害に強い都市づくりのため、ハード、ソフトあわせた総合的な高潮・津波対策に取り組む。

① 高潮・津波対策事業

南海トラフ巨大地震に伴う津波（レベル2）対策として、防潮堤等をねばり強い構造に補強するとともに、市民の安全・安心の確保に必要なソフト対策を行う（防潮堤等の補強は令和4年度完了予定）。



② 防潮鉄扉等の遠隔操作化

発災後、短時間で到達する津波に対し、防潮鉄扉等を迅速・確実に閉鎖するとともに、閉鎖従事者のさらなる安全確保を目的に、防潮鉄扉等の閉鎖訓練を継続して実施する。また、防災機能の強化を目指し、平成30年度から遠隔操作化に取り組んでおり、令和2年1月より一部運用を開始している。引き続き、令和6年度末の完了を目標に、神戸港全域の遠隔操作化を進める。

③ 海岸保全施設の老朽化対策

津波や高潮発生時における市民の安全を確保するため、老朽化した海岸保全施設の補修を実施し、施設の機能維持及び延命化に取り組む。

④ 神戸港高潮対策緊急事業

ポートアイランドにおいて、高潮発生時においても通行機能を確保するため、排水ポンプ整備や道路の嵩上げなどによる緊急輸送路の浸水対策に取り組むほか、六甲アイランドにおいても荷さばき地や背後道路の地盤嵩上げを進める。